

## ジンコソーラー四川工場は生産能力5GWを追加し、高効率タイガー・モジュールを2020年に量産化

2019年11月8日、太陽光発電業界初RE100に加盟した太陽光発電企業ジンコソーラーは四川省楽山の生産拠点で高効率モノウエハ生産能力5GWを追加すると発表した。当工場フェーズIIの生産容量拡張が完了した後、同社のモノウエハの合計生産能力を18GWに拡大すると予想される。

四川工場フェーズIの5GWは2019年第2四半期に生産を開始し、今は既にフル生産した。新追加の5GWの生産能力は2020年第2四半期のフル生産開始予定と見通している。ジンコソーラーCEOの陳康平は、「市場は高効率単結晶製品に対する需要が強く、新追加の生産能力はジンコソーラーがこの傾向による成長機会を十分に把握するのに役立つだろう。単結晶の生産能力の快速生産は会社の一体化生産レベルを高め、会社全体の収益力を著しく向上させる。」とコメントした。

生産能力を拡大すると同時に、ジンコソーラーも市場需要をずっと注目し、技術力を絶えずに高め、製品ラインを拡張している。高効率両面発電モジュール「Swan」を発表した後、一年間ぐらいの準備を経て、同社は10月末にタイリングリボン (Tiling Ribbon, TR) 技術を採用した出力460 Wのタイガー?モジュールシリーズを発表し、そして、2020年に量産化を実現する予定である。同規模のプロジェクトでは、タイガー?モジュールを利用する場合でモジュールの数を減らす同時に、人件費を下げられ、工期を短縮し、より低いLCOEを実現でき、プロジェクトの収益を向上できる。